



RI会長

2021-22年度会長

シェカール・メータ氏

Calcutta-Mahanagarロータリークラブ所属
インド(西ベンガル州)

会計士であり、自身が設立した不動産開発会社「Skyline Group」の会長。カナダを本拠とする「Operation Eyesight Universal (India)」のディレクター。

災害救援に熱心に携わり、シェルターボックス（英国）の管理委員も務める。2004年のインド洋大津波の際には、被災した家族のために500戸近い家屋の建築を支援。

南アジアで1,500件以上の心臓外科手術を行ったプログラムを立ち上げる。インド全土での識字率向上をはかる「TEACHプログラム」の創設にもかかわり、このプログラムを通じて何千もの学校に支援を提供。

1984年にロータリークラブ入会。RI理事、各種委員会の委員と委員長、ゾーンコーディネーター、研修リーダー、ロータリー財団専門家グループメンバー、地区ガバナーを歴任。ロータリー財団（インド）の理事長も務める。

超我の奉仕賞、ロータリー財団功労表彰状と特別功労賞を受賞。

ラシ夫人と共にメジャードナー、遺贈友の会会員としてロータリー財団を支援。

会長イニシアチブ

平等とは、平和で豊か、かつ持続可能な世界を築くために必要となる基本的人権です。しかし、世界を見ると、女兒と成人女性は保健や教育などの分野で不平等に直面しており、男性よりも高い確率で暴力と貧困を経験しています。ロータリーは、女兒の健康、教育、福祉、経済的安定の向上に焦点を当てたプロジェクトを優先するよう、クラブと地区に奨励しています。生活改善のためのリソースを利用できるよう支援することで、女兒を守り、その地位向上を図り、公平さを高めるプロジェクトに地域社会の人びとが参加できるよう、クラブ主導の取り組みや、地区補助金とグローバル補助金を活用した取り組みを行いましょ。

ロータリー奉仕デーを実施しましょう：ロータリー会員が地元の人びとと一緒に地域社会の改善に取り組むことのできる参加型の奉仕活動をぜひご計画ください。

会長主催会議に出席しましょう。2021-22年度に開催される一連の会長主催会議では、ロータリークラブや地区が地元や海外で実施している人道的活動にスポットを当てます。

- 2021年10月4～5日：慶州（韓国）
- 2021年11月5～7日：ベネチア（イタリア）
- 2021年11月26～27日：マニラ（フィリピン）
- 2022年2月4～6日：ハイデラバード（インド）
- 2022年2月12～13日：フォズ・ド・イグアス（ブラジル）
- 2022年3月4～5日：マプト（モザンビーク）
- 2022年6月3～4日：ヒューストン（米国）

2021-2022 年度 RI テーマ

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

RI 会長テーマ発表 (記事 Ryan Hyland)



カルカッタ-マハナガル・ロータリークラブ(インド、西ベンガル州)に所属するメータ氏は、ロータリー国際協議会中の2月1日、次期地区ガバナーに向けて2021-22年度の会長テーマ「奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」を発表しました。地区ガバナーエレクトを研修するための年次行事である国際協議会は当初、オーランド(米国フロリダ州)で開催予定でしたが、新型コロナウイルス流行のためバーチャル(オンライン)で開催されました。

ロータリーでの奉仕プロジェクトへの参加を通じて自身が人間として成長したことに触れたメータ氏は、その経験を通じてほかの人のニーズに目を向けるようになったと述べました。クラブ入会后もなく、メータ氏はインドの僻村を支援するプロジェクトに参加しました。そこで村人たちの状況を目にしたことで、奉仕への決意が固まりました。「同胞たちが抱える苦境を真に理解しました」とメータ氏は語ります。その後も、子どもへの義肢の寄贈、家庭への安全な水と衛生設備の提供、地域の医療施設の改善など、数々の取り組みに参加しました。

「ロータリーが私の心に火をつけました。自分の身の回りを超えたところに目を向け、人類全体を考えるようになりました」とメータ氏。「奉仕が私の生き方となったのです。多くの方々と同じように、奉仕とは、自分がこの地上に占める空間に対して支払う家賃である、という信条を持つようになりました」

メータ氏は、次期ガバナーに対し、次年度に自らが模範となって導き、測定可能・持続可能なインパクトをもたらす奉仕プロジェクトへの会員の参加意欲を引きだすよう呼びかけました。また、各クラブが「ロータリー奉仕デー」を実施することを求めました。

「ガバナーとしての役目が終わるとき、皆さんは、ご自身のリーダーシップ、ご自身がロータリアンとローターアクターに与えたインスピレーションのおかげで、会員による奉仕を通じて世界が前よりもよくなったと感じるはずですよ」

多様性と会員基盤の向上に焦点を当てる

メータ氏は、2021-22年度には会員が女子のエンパワメントに力を注ぎ、教育、リソース、奉仕、機会など、未来の女性リーダーの成功に必要な手段を与えてほしいと述べました。その上で、多様性、公平さ、開放性に対するロータリーの信念を会員が活動の指針とすることが大切であると語りました。「世界各地で女子は多くの問題に直面しており、リーダーである皆さんは、こうした女子が抱える問題にロータリーが取り組み、それを和らげるように導くことができます」

奉仕を通じて大きなインパクトをもたらすには、ロータリーの会員基盤を広げる必要がある、とメータ氏。全世界の会員数は、過去20年間、約120万人のまま横ばいです。このため、2022年7月1日までに130万人に増やすことを目指して地区で率先して活動するよう、次期ガバナーに呼びかけました。メータ氏の「Each One, Bring One」(みんなが一人を入会させよう)は、今後17カ月間、全会員がロータリーに一人を入会させることを求めるイニシアチブです。

会員基盤を広げながら、ポリオ根絶活動、新型コロナウイルスとの闘い、地域社会への奉仕を続けていくのは野心的な目標であることを認めた上で、「だからこそ皆さんの意欲が駆り立てられるでしょう」とメータ氏。「挑戦に立ち向かうのがロータリアンだからです」

「ロータリーが私の心に火をつけました。自分の身の回りを超えたところに目を向け、人類全体を考えるようになりました」

シェカール・メータ
国際ロータリー会長